

第1回亀岡市学校規模適正化検討会議 議事摘録

■日時

平成26年8月7日(木) 14:00~16:00

■会場

亀岡市役所1階 市民ホール

■議事

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ
4. 委員自己紹介
5. 会長、副会長の選任
6. 協議・検討
 - (1)会議の趣旨説明
 - (2)スケジュールの確認
 - (3)亀岡市における現状と課題
 - (4)意見交換
7. 閉会

■出席委員

19名(欠席1名)

■意見交換発言内容

会長:まずは現状と課題の理解が大事で、国や府の動向も見据えて議論をしたい。会議を生涯学習の場ととらえみなさんと勉強をしながら、亀岡市の教育をどうするのかについて建設的な議論をしていきたい。

委員:P7の学級編制の基準の一学年の人数は経年的に変わってきているのか。また他地域で基準以下の少人数での実施例はあるのか。

事務局:京都府では1年生以外は40人であるが、少人数学級を進めている。多くの学校で35人で進められている。

会長:定数は減ってきている。35人というのはOECDが提唱する国際基準でかなり進んだ数字。財政上の問題もあり小学校低学年でしか実現できていないが、今後は高学年でも増えていくだろう。

会長:亀岡市は意欲的で、小中一貫校を進めている。平成28年度に国の学習指導要領が改正され小中一貫教育校が前面に出てくるが、亀岡市ではこれを先取りしている。

委員:行政の立場として自治会から参加頂いている委員にお聞きしたい。学校は教育の場であると同時に地域のシンボルでもある。地域として学校をどういう位置づけで考えているのか聞きたい。

委員:地域性があるので地域によって小学校と自治会の連携は異なる。私の地域は城西小学校区で元は亀岡小学校区だったのが分離して生まれた。10年前のコミュニティ条例によって亀岡東部・中部・西部に分かれ自治会も分かれたが、旧亀岡町として一つだった。亀岡地区では地域と学校がうまく連携し、双方が特性のある組織にしていきたいと考えている。

委員：本梅小学校区は約 470 世帯、1700 人の地域。小規模校で複式学級も近いと思われる。学校は町のシンボルでコミュニケーションの中核になっている。色々な行事でグラウンド、校舎、教室も使い、夜間もスポーツ練習に利用。春の運動会、夏の納涼等々グラウンドを活用していて、他に代わるものが無いコミュニティの中核である。

委員：保津町自治会。小学校で心の教育、コミュニティ・スクールの会長もしている。毎年、先生が変わったときに、学校の勉強は先生だが地域のことは知らない、地域文化・歴史については町の大人が責任を持って進めるので、授業のじゃまにならない程度に私達を使ってくださいと挨拶している。学校は町のシンボルで希望であり、存続してほしいというのがどこの町でも同じ願いだと思う。

委員：つつじヶ丘小学校、東輝中学校共大規模校である。地域は昭和 43 年にできた団地で高齢化が進んで、自治会の対策は高齢者の方を向いてしまう。学校とは毎年の校区連絡会で小・中学校の校長、教頭と課題を話し合う程度であり、大規模校なので自治会としてひとりひとりの児童・生徒に目を向けるのは難しい。

委員：西別院小学校は、亀岡から 15km 離れていて大阪府に近い小規模校。学校は地域のシンボルであり、子どもも一体に様々な行事をしてきた。京都府の文化財指定されている御田祭をはじめ行事に子どもが参加してきた。学校が無ければ村は過疎化の一途であり、生徒数を増やし維持できる方策はないかと校長先生等と検討している。例えば高槻市の檜田小学校では特認校として地域の子 20 人と高槻市内から通学する子 30 人の 50 人が通学している。特色のある教育が無いとわざわざ山の学校へ来ない。大分・別府小や兵庫・香住の香美町などでも工夫して小規模校の維持をしている。地域のシンボルとして小学校を維持する方法を、自治会内に活性化委員会をつくり素人なりに検討している。地元の消防団に入っている若者が 5 人ほど地元立派な家があるのに亀岡地区に住んでいる。何とか学校を維持できるよう教頭、校長と意見交換をしている。

委員：吉川町は 400 戸弱で小学校児童数 52 人の小規模校。小さい故に毎日送り迎えで安全を確保し、学校、親、地域で子育てしようという町。このままでは人口増加が見込めないので、市へは既存宅地に家を建てられるように要望しているが、実現していない。自分も吉川小学校に通って育ったので、学校への思いがあり残したいと思って取り組んでいる。

委員：P 8 の小規模校・大規模校のメリット・デメリットの表だが、小規模校はメリットが少なく大規模校はメリットが多いように書いてあり、大規模化がより良いという印象を受けるがどうか。小規模校の良さもあるので、これを細かくみていきたい。

委員：検討は 2 年間あるので、今日は大きなことを詰めて共通理解を得ておきたい。第 2 回は住民がどう考えているのかなどアンケート調査について検討する。この表は特に意図的ではないし、文科省としてこれくらいしか出てこなかったのではないかと参考程度にみておけば良いだろう。児童・生徒数と教育効果の関係については他にも多く研究があるので、機会があれば私の方からも提供したい。

委員：今後の論議だが、数や経営の理論からみると大規模校が良いのかも知れないが、児童の立場から考えることが重要だと思う。

会長：子どもが感じていることは親を通して聞けばよい。地域や保護者がどう考えているか今後の調査結果に期待する。この会議は数で決める会議ではなく、亀岡市の将来の教育をどう

するのか、また複式学級は教育的にプラスではないのでこれをどう解消するのか考えるのが目的。

事務局：現段階で検討会の結論は持っていない。実態を把握し、子どもの豊かな育ち、良い教育を進めるために何が良いのか、皆で考えて頂く。基本方針を決定頂ければその結論を市が受け、基本方針に基づいて計画化し動いていく。

委員：P4の学区変遷をみれば川東小学校が4校統合でできているが、児童数が減ったので作ったのではないか。このときに地域ではどんな話があったのか、今抱えている問題をその当時に地域で経験しているのではないか、話を聞く意味があると思う。卒業した学校がなくなるのも寂しいが、小規模校にも問題がある。そこをどう乗り越えて今があるのか聞きたい。

会長：この会議に集まっているのは、子どもたちの教育をいかに豊かにするのが課題であり、マイナスをいかにプラスに変えるのか、例えば複式学級の問題をどうするのか。そういう点では過去の問題と少し論点が違うかもしれない。

事務局：昭和39年当時の統合の理由としては、人数の問題よりも地域からの要望で統合されたと聞いている。

委員：国や府の方針として、複式学級は必ず解消しないとイケないのか。

事務局：複式学級は制度上存在し、必ず解消しないとイケないものではない。しかしデメリットがあるので解消が望ましいとされている。

会長：研究者など教育の世界では、複式学級は望ましくないといわれている。

委員：検討の答えはなく2年間の間に提言をもらいまとめたとのことだが、検討会の名称に「学校規模適正化」とあるのはどうなのか。かつて畑野小学校は廃校寸前だったが住宅開発で人口が増え子どもが増えて廃校されなかった。吉川小学校も廃校の噂があったが府営住宅が建って免れた。これから少子化が進んで廃校問題が生まれてくる可能性があると思うが、会議の結論として「あの学校は廃校やむなし」といった方針をだすことが最終目的なのか、視野にあるのか。

会長：この会議では、こんなことが考えられるという私達の結論を出せば良いのであり、決めろとは言われていない。

事務局：具体的な結論も想定するし、何人学級が望ましいという表現もあるし、会議で出せる結論でも良く、そこに異なる意見を組み込むこともあるだろう。検討会で結論を統一して頂ければ望ましいが、必ずしもそこまでは求めていない。

委員：亀岡市教育振興基本計画のめざす子ども像「ほっかほか心 ふるさと大好き かめおかつ子」は、いつから使っているのか。

事務局：教育長が就任した平成21年度から使っている。

委員：5年たったわけだけど、その子ども像は実現できているのか、どれくらい近づいているのか。世の中が複雑になり、子どもが落ち着いてゆっくりと、とはいかない中で、亀岡はどうなんだろうか。

会長：教育振興基本計画を検討したときに、良い言葉なので計画の中心に据えた。計画ができたのが平成25年3月でまだ時間がいくらか経っていないし、評価自体難しいことである。

教育長：私が教育長に就任後、生まれ育った地域を知り・愛する気持ちを持って欲しい、友達を

思いやる心を持って欲しいと、ふるさと学習「かめおか学」を始めて4年目となる。伝統行事や神社仏閣を題材に地域の学習をしたりして、徐々に位置づいてきてはいる。個々人が子ども像に迫るように育っているかといえはよくわからないが、全体的にみれば、隣接市町よりも生徒指導上の問題が少なく、小・中学校共に落ち着いた環境で学んでいるといえる。危機管理を持った指導の賜物だが、ふるさと学習の一面でもあるかと思う。いずれは「ものさし」で評価しないとイケないが現状はそういう捉え方である。

会長：府の振興計画にもケルン憲章でも「インクルーシブな社会づくり」がいられている。意味するところは「他人により暖かく包まれていると思えるような社会をつくる」。特別支援の子ども、被差別の人なども含めて暖かくつながっていくということ、それと結びつけて良い言葉だと思ひ計画に盛り込んだ。この言葉の数量的な評価は難しいが、可能な限りできれば良い。

委員：この子ども像について私は肯定的にとらえている。しかし小学校の間だけで効果がでるものではなく、大人になってから振り返ってみたときというのものもあるから、小学校だけの効果判定は難しいだろう。この言葉がもっと浸透すれば良いと思う。

委員：教育振興基本計画に特別支援教育の充実が謳ってあるが、現況データの学級数には特別支援学級を除いているのが気になる。カッコ書きでも良いので数字を入れて欲しい。

事務局：次回資料には入れたい。

委員：現在29歳でずっと亀岡で育ってきた。亀岡の教育、地域の強みは何か。自分は亀岡で育ったからかえって見えないのかもしれない。みなさんがどのように感じているのか、それを知らないとな適正化の議論ができないのではないか。

委員：今は行政にいるが一昨年度までは学校の現場にいた。亀岡の教育の強みは、学校自身が常に地域の中の学校であるという意識を忘れず、地域から学校が大切にされていて、これをベースに教育がされていることである。都会化が進んだ地域もあり変化もあるが、この地域とのつながりが亀岡の強み。

会長：全国各地を回ってきたが、亀岡は全国とくらべて地域の人の子どもへの視線が温かい。京都学園大で心の教育をやっていたが、住民がとても熱心だった。また畑野小、西別院小、吉川小などで自然体験学習が豊かに取り組まれている。ガレリアかめおかでやっている「サイエンスフェスタ」にあれだけ集まっているのは関西では少ない。

委員：公平な立場で正しい判断をしたいが、自治会から出ている委員は教育についての専門知識が無い。提案だが、検討会とは別に年に1～2回勉強会をして、検討の基礎となる知識を得てはどうか。委員の職責を果たして提言を出していきたいが、もう少し専門知識を与えてもらいたい。

会長：積極的な意見をありがとうございました。